

# 最先端の減災対策学ぶ

## 名古屋大学の研究センターを視察

知  
愛  
議  
党  
県

公明党愛知県議団(木藤俊郎団長)はここのほど、名古屋大学の減災連携研究センターを訪れ、自然災害の減災対策などをめぐり、福和伸夫センター長と活発に意見交換した。

同センターは海溝型の巨大地震や温暖化に伴う風雨の被害の軽減をめざし、最先端の減災対策を研究。地域の減災力向上へ、産官学民の連携の要となった。被害予測調査や防災戦略づくりなどを推進している。

一行は、センター内で長周期地震動により、実際に高層ビルがどのように揺れるかを再現できる装置などを視察。福和センター長らから、研究成果を踏まえた減災対策など

減災力向上へ、産官学民の連携の要となった。被害予測調査や防災戦略づくりなどを推進している。一行は、センター内で長周期地震動により、実際に高層ビルがどのように揺れるかを再現できる装置などを視察。福和センター長らから、研究成果を踏まえた減災対策など

できる専門家が不足している問題を指摘し、「近隣自治体が協力して、一緒に防災対策に取り組む仕組みをつくる必要がある」と強調した。また、愛知県が優先的に取り組むべき課題として、防災教育や広域防災拠点の整備を挙げた。

これに対し、木藤団長は「最先端の研究成果を生かした防災・減災対策を県政に反映させたい」と語った。



福和センター長(右端)から説明を受ける  
党愛知県議団(左から6人)